

発行：日本社会病理学会

事務局：〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34  
京都橘大学

TEL 075-574-4224 FAX 075-574-4122

URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>

e-mail : [sakuta@bukkyo-u.ac.jp](mailto:sakuta@bukkyo-u.ac.jp)

郵便振替口座：001704-4-56341

編集責任者：作田誠一郎（庶務理事）

### 【目次】

1. 学会大会の開催にあたって	2
2. 第33回日本社会病理学会大会のお知らせ	3
3. 渉外・広報委員会からのお知らせ	6
4. 編集委員会からのお知らせ	7
5. 2017年度第1回理事会報告（議事抄録）	7
6. 会員コーナー（近況報告）	8
7. 会員の新刊書の紹介コーナー	9
8. 会員異動	9
9. 事務局より	9

### 重要事項

1. 第33回大会は9月1日（金）～3日（日）に國學院大學にて、日本犯罪学関連学会ネットワーク合同大会として開催される予定です。
2. 2017年度より、学会ニュースは年2回（8月・1月）の発行となります。

# 1. 学会大会の開催にあたって

## 第2回犯罪学合同大会の開催にあたって

準備委員会委員長 横山 實

日本では、1928年に日本犯罪学会が設立されましたが、第2次大戦後には、犯罪学の分野の違いに応じて、数個の学会が発足しています。私は、それを2012年発行の *Handbook of Asian Criminology* において紹介しています。学問の専門化に応じて、学会が分化することは、研究を掘り下げるためには望ましいことです。しかし、それが極端になると、研究者は、犯罪学の全体像を見通せなくなります。このような弊害を防ぐために、第1回犯罪学合同大会が、1994年に慶応大学で開催されました。その後、第2回大会の開催については、犯罪学の研究者の間では、話題に上がることがありませんでした。

国際犯罪学会第16回世界大会が、2011年8月に開催されることになりました。そこで、日本犯罪関連学会連合会が結成され、その下で大会を準備して実施にこぎつけたのです。その後、この連合会を母体にして、日本犯罪学会、日本犯罪社会学会、日本犯罪心理学会、日本社会病理学会、日本司法福祉学会が日本犯罪学関連学会ネットワークを形成しました。結成の直後に、日本更生保護学会が加入しましたので、各学会の活動の情報交換を主な目的としたネットワークの活動は、6学会で行うことになりました。このネットワークは、2014年6月に大阪商業大学で開催されたアジア犯罪学会第6回年次大会の開催に寄与しました。

この二つの国際会議の経験をふまえて、2015年3月の日本犯罪学関連学会ネットワーク第4回定例会議において、犯罪学合同大会の開催が話題となりました。そこで、2015年度の幹事学会の委員である私がイニチアチブをとって、準備を進めることになりました。準備で一番大変なことは、2年後開催の会場の確保でした。それは、國學院大学の坂口吉一理事長の特別の配慮で、國學院大学で会場を提供していただけることになりました。会場のめどがたちましたので、2016年3月のネットワーク定例会議で、加盟5学会で合同大会を行うことが決まり、第2回犯罪学合同大会準備委員会が発足しました（日本更生保護学会は、2017年の秋に第3回世界保護観察会議を開催するために、オブザーバ参加です）。

体制が固まりましたので、準備が本格化しました。第1日目は、合同シンポジウムを開催することにして、石塚伸一副委員長から企画が提案されました。合同大会プログラム作成のために各参加学会から原稿を提出してもらいましたが、その取りまとめは、岡本吉生副委員長が行いました。大会校における準備は、関哲夫副委員長を中心として行われました。合同大会の翌日には、施設見学ツアーを企画しましたが、本庄武準備委員が中心となって行われました。合同大会開催の準備に当たった方々には、お礼申し上げます。

合同大会は、2日半の間、シンポジウム、テーマ・セッション、自由報告などで、多彩なプログラムが組まれています。参加された方々には、新鮮な学問的刺激を受けるために、自分の所属学会以外の学会の会場にも出向いて、聴講するだけでなく、積極的にディスカッションに参加して頂ければと思っています。

## 日本社会病理学会第 33 回大会の開催にあたって

犯罪学系合同大会準備委員 高原正興

御承知のように、今年度は本学会と日本犯罪学会、日本犯罪社会学会、日本犯罪心理学、日本司法福祉学会の5学会が合同で「第2回犯罪系合同大会」を國學院大學で開催します。1994年以來23年ぶりのこととなります。そして本学会の第33回大会は、この合同大会と同じキャンパス内にて、同じ日程において行います。

合同大会の第1日目（9月1日/金）は合同企画のシンポジウムが開催されますが、本学会は第2日目（9月2日午後/土）にシンポジウム「『わたし』をひらくー生きることについての知を協働で編むことと社会病理・社会問題研究」を企画し、第3日目（9月3日/日）の午前に自由報告部会を2つ、午後にラウンドテーブルを開催することにしていきます（詳細は「日本社会病理学会第33回大会プログラム・報告要旨集」を参照のこと）。

本学会が合同大会に参加する最大のメリットは、他学会の大会にも参加してその成果を学ぶとともに、本学会の存在意義とその成果を広く他学会の会員に学んでいただくことにあります。合同大会の2日目12時には國學院大學1号館1階に本学会の受付を出します。参加費は所属されているどの学会でも受け付けています。また、2日目夜の合同懇親会も含めて、本学会としては久しぶりの開催地である東京都区内にて、会員同士の交流を深めていただければ幸いです。会員諸氏のご参加を心よりお待ち申し上げます。

## 2. 第33回日本社会病理学会大会のお知らせ

### 1. 今年は合同大会です

日本社会病理学会第33回大会は日本犯罪関連学会ネットワークによる第2回合同大会のひとつとして位置づけられる大会となります。

合同大会は、犯罪学に関する学際的研究や新しい知見が必要となっていることを踏まえて、統一テーマ「近未来の犯罪学とその担い手たち～犯罪をめぐる学際的・学融的研究の体系化の可能性～」のもとで開催されます。

今回の合同学会は、犯罪学を「犯罪現象をめぐる多様な科学的アプローチによる学際的・学融的な科学」として再構築し、若い研究者たちにとって魅力的な学問分野にするためのスタート・アップと位置づけています。それぞれの学会が自由かつ闊達な研究活動を展開することを目指して一同に会することとなりました。すべての学会が國學院大學渋谷キャンパスで開催されます。

9月1日（金）には公開シンポジウムが開催されます。会員の皆様には合同大会とあわせてシンポジウムにも奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。公開シンポジウムは「アディクションからの回復支援のネットワークの可能性ー司法と福祉、理論と実践は、分かりあえるのか？ー」です。詳細につきましてはチラシをご覧ください。9月4日（月）には関東近辺の矯正施設等の見学会が開催されます（すでに締め切っています）。

## 2. 第33回日本社会病理学会大会の基調

9月2日（土）と3日（日）にかけて開催される第33回大会は、「社会病理・社会問題研究に期待されるもの—その拠点・舞台となる学会をめざして」と大きいテーマを掲げ、ここ数年に渡って開催してきた、主に若手や中堅からのこれまでの社会病理研究をめぐる動向の考察を受け、社会病理学・社会病理学会のこれからを考えてみたいと思います。

犯罪系の学会のなかにあつて日本社会病理学会は、犯罪のすそ野部分を視野に入れています。広く逸脱行動として把握し、犯罪・非行については独自のアプローチをしている学会ともいえます。それらを社会現象として切り取る鮮やかさ、社会病理・社会問題の理論の構築、社会の動態と関連づけての分析と考察、社会問題対策の政策・制度やその歴史的研究、実践や運動に関する多角的な研究を旺盛に展開している学会といえます。2019年には35周年を迎えます。今次の理事会ならびに研究委員会の3年間をとおして、人間の行為から社会制度・政策、歴史や政治経済をも含めた視野をもちつつ、公共社会学的なアプローチ、社会問題の歴史社会学的研究との接合、実践や解決のための臨床社会学との関係づけ等を含んだ総合的な研究の舞台・拠点にしていきたいと考えています。現代的な課題にかかわる社会的現実の調査研究に取り組み、その研究をとおして、実践との関係づけ、理論化への配慮、政策課題の意識化という俯瞰的でマクロな視野をもちつつも、最近の研究の関心として指摘できる、身近なこと、日常の諸実践を扱うこと、さらに研究する「わたし」との関係づけ、研究の倫理と責任そしてポジショナリティ等について焦点をあてていきます。身近な世界や日常性のなかにある社会問題、日常的な生の実践とかかわりながら臨床、公共、歴史を語る社会病理・社会問題の「いまとここ」から、社会病理・社会問題研究の「これから」を見据えていきたいと思っています。

## 3. 大会シンポジウムについて

学会シンポジウム（9月2日（土）13時20分～16時20分）はテーマとして、「『わたし』をひらく—生きることについての知を協働で編むことと社会問題研究」と題して開催します。報告者は以下のとおりです。

### ①大川聡子さん（大阪府立大学）

「ライフスタイルとしての10代の母—出産を選択した社会的経験に着目して考える」

### ②尾崎俊也さん（大阪大学）

「暴力加害者への接近—男性研究の視点から」

### ③徳永祥子さん（日本財団/福祉特別事業チーム研究員）

「子どもの育つ場所—社会問題としての養護問題」

### ④川端浩平さん（福島大学）

「身近な世界のフィールドワークから考える社会問題（仮題）」

主旨説明と進行：中村正（立命館大学）

#### 4. 自由報告部会とラウンドテーブルについて

第3日目となる9月3日(日)は、自由報告部会(10時～12時30分)とラウンドテーブル(13時30分～16時30分)を予定しています。

何よりも学会の活力は会員の自由報告です。今年は合同大会となるために例年より開催日が早くなり、報告の申し込み数を心配しておりましたが、会員の皆様のおかげで2つの部会を開催することになりました。以下の内容です。

##### ○自由報告部会Ⅰ(10時～12時30分)

福重 清(立教大学)「〈依存症〉をめぐる問題の構築とその変化」

金澤由佳(長崎国際大学)「社会福祉と医療の法制度化が表わしているもの

—精神保健福祉法一部改正法律案を手がかりに—

麦倉 哲(岩手大学)「災害研究における社会病理学的視点

—自然災害還元論と被災自己責任論を超えて—

前島賢土(中央大学)「大手電機メーカーの不正会計の分析」

##### ○自由報告部会Ⅱ(10時～12時30分)

三代陽介(熊本大学)「高校へ行き直すことを可能とするサポート要因の分析にむけて」

高橋康史(筑波大学)「スティグマの解消戦略としての自己の多元化

—『家族の犯罪』に関する語りから—

高梨 薫(神戸学院大学)「自死対策としてのメンタルヘルスに関連する

社会的要因の検討—ソーシャル・キャピタルと悩みやストレスの相談—

進藤雄三(大阪市立大学)「良い死／悪い死」

さらに、ラウンドテーブル(13時30分～16時30分)も計画しています。テーマは「社会病理研究・社会問題研究の可能性—方法と対象の多様性をもとにして考える」です。社会病理・社会問題の研究対象の多様性をもとに相互に研究交流しつつ、社会病理学や社会問題論の方法論、分析手法、その工夫について焦点をあて社会病理・社会問題研究のこれからの考えます。

なお、合同大会となったために開催時期が早まり、企画の練り上げを急いで進めているために大会の要旨集の郵送は大会の直前となりそうです。合同大会の要旨集も、別途作成される予定です。これらの諸点、ご了承ください。

(研究委員会委員長 中村正)

### 3. 渉外・広報委員会からのお知らせ

2017年度秋季の国内学会大会情報をご案内いたします。

◎日本犯罪社会学会公開シンポジウム（同日午前中には総会が開催されます）

日程：2017年10月21日（土）

場所：龍谷大学深草キャンパス

公開シンポジウム「人はなぜ暴力を振るうのか、その対策とは」

13：00 開会のごあいさつ

13：15 基調講演「暴力の解剖学」

ペンシルバニア大学教授教授 エイドリアン・レイン

(Richard Perry University Professor Adrian Raine)

14：45 休憩

15：00 シンポジウム「日欧比較：女性に対する暴力被害調査」

司会 浜井浩一（龍谷大学）

パネリスト

①FRA(ヨーロッパ連合基本的人権機関) サミ・ネバラ(Sami Nevala)

「EUが実施した女性に対する暴力被害調査の目的と成果」

②龍谷大学 浜井浩一 「日本調査実施のプロセス」

③龍谷大学 津島昌寛 「日本調査からわかったこと」

指定討論 岩井宜子（専修大学名誉教授）

17：50 閉会のごあいさつ

・参加費無料（予定）

・逐次通訳あり（予定）

※日本犯罪社会学会、龍谷大学矯正保護総合センター、龍谷大学社会科学研究所、日本学術振興会（科学研究費助成事業）の共催です

◎日本社会福祉学会第65回秋季大会

日程：2017年10月21日（土）・22日（日）

場所：首都大学東京南大沢キャンパス

テーマ：「包摂型社会」への提言一人びとの生の剥奪と再生—

※詳細につきましては大会ウェブサイト（<http://www.jssw.jp/conf/65/>）をご覧ください。

◎日本教育社会学会第69回大会

日程：2017年10月21日（土）・22日（日）

場所：一橋大学国立西キャンパス

※大会前日の10月20日（金）には若手研究者交流会（若手の教育社会学研究者の自由な意見交換の場）が開催されます。時間は16：00～18：00、場所は一橋大学国立西キャンパスの佐野書院です。

◎日本社会学会第 90 回大会

日程：2017 年 11 月 4 日（土）・5 日（日）

場所：東京大学本郷キャンパス

※詳細につきましては学会ウェブサイト (<http://www.gakkai.ne.jp/jss/>) をご覧ください。

(渉外・広報委員会 田中智仁)

#### 4. 編集委員会からのお知らせ

現在、9月の大会に間に合うように、機関誌『現代の社会病理』32号の編集作業が進行中です。7月下旬から8月にかけて、印刷所から校正等の連絡が入りますので、執筆の先生方ご協力よろしくお願いたします。

(編集委員会委員長 金子雅彦)

#### 5. 2017 年度第 1 回理事会報告（議事抄録）

1. 日時：2017 年 5 月 14 日（日）14:00～17:00

2. 場所：中央大学後楽園校舎 6 号館 6701 教室

3. 出欠：出席者 11 名（朝田佳尚、井上眞理子、金子雅彦、作田誠一郎、佐藤哲彦、清水新二、竹中祐二、田中智仁、中村正、麦倉哲、矢島正見）、委任 1 名で定足数を満たした。他に、高原正興庶務委員が同席した。

##### 4. 議題

###### ①第 33 回大会プログラムの件

中村研究委員長より、配付資料に基づいて次回大会並びに今期の方向性について説明がなされた。また、例年より作業スケジュールが早くなることから、それに対する確認が行われた。

###### ②機関誌「現代の社会病理」第 32 号の編集の件

金子編集委員長より、配付資料に基づいて進行状況の確認がなされた。特に、9月中の刊行を目指しているが、作業が順調に進行し、8月中に刊行が完了した場合には学会大会時に配付する予定であることの報告がなされた。

###### ③学術奨励賞の選考について

作田事務局長より、互選の結果辻正二会員が選考委員長となったことが報告された。また、応募ならびに委員会推薦のいずれもが無いという結果となったことが、合わせて報告された。

###### ④入会・退会希望者の承認の件

2名の入会申し込みと4名の退会希望を承認した。また、作田事務局長より、会費納入の催促の結果をふまえて、5年間長期未納の会員について報告があり、該当者3名を会員資格喪失による退会扱いとすることが承認された。

###### ⑤学会企画の図書刊行の件

清水会長より、過去3ヶ年に渡る、学会大会におけるラウンドテーブル等の若手中心の取り組みを、目に見える成果として残すべく学会企画の図書が刊行できないか、という提案がなされた。本件については、ワーキンググループを作り、次回理事会に詳細な提案を行うこととなった。

## ⑥著作権規定の訂正について

金子編集委員長より、配付資料に基づいて説明がなされた。手続きを簡便にすることを念頭に置いた規定の作成がなされ、原案を総会に上程することを確認した。

## ⑦第34回大会の開催校について

関西圏での開催を計画する方向で継続審議されることとなった。

### 5. 報告

①作田事務局長より、学会ニュース 84号作成スケジュールについて報告がなされた。また、今年度よりニュースレター作成を年2回としたこと、大会日程が例年より早まっていることから、大会案内や会費納入依頼を別途5月に実施することが報告された。

②作田事務局長より、会員数の現況は174名であることが報告された。

③金子編集委員長より、書誌情報の不統一を避けるために、投稿及び執筆規定の7を変更したことが報告された。

(庶務理事 竹中祐二)

## 6. 会員コーナー（近況報告）

### ○下山昭夫（淑徳大学）

#### (1) 最近の研究テーマ・関心事

現在は、社会病理学やその周辺領域の学術研究の世界からは遠く離れた、「高齢者を中心にした社会福祉の政策」領域に生息しています。近年は、年金受給年齢が近づきつつあることから、上記の分野において、コツコツと大学の研究誌に好きなことを書いております。また、大学内での地位役割に応じて、高等教育政策の動向について整理するなど、まったくの異分野でも活動しております。

#### (2) 著書・論文等

2016「地域包括ケアシステムとコミュニティの再生」淑徳大学創立50周年記念論集刊行委員会『共生社会の創出をめざして』学文社

2016「福祉政策における家族」淑徳大学社会福祉研究所編『総合福祉研究』第21号

2016「認証評価制度の教育イノベーション機能」『淑徳大学高等教育研究開発センター年報』第3号

### ○進藤雄三（大阪市立大学）

#### (1) 最近の研究テーマ・関心事

「医療化」論の延長線上で、死の医療化、さらに「死の社会学」という分野・領域それぞれ自体の全体像に関心が向きつつあります。死と個別領域の関わりと、全容それ自体への関心の両立を目指しています。

#### (2) 著書・論文等

2017「専門家支配」日本社会学会理論応用事典刊行委員会（編）『理論応用事典』丸善出版

2017「健康と医療」盛山和夫他編『社会学入門』ミネルヴァ書房：191-205

2015「死の社会学的研究に向けて」『人文研究』66巻：211-222

## 7. 会員の新刊書の紹介コーナー

\*事務局では、会員による新刊書の情報をお待ちしております。

\*自薦・他薦を問わず、新刊書の情報をお持ちの会員は、事務局までご一報下さい。

小宮信夫『写真でわかる世界の防犯』小学館 2017 1,944 円

廣末登『ヤクザと介護』角川新書 2017 (9月10日発売予定)

## 8. 会員異動

(個人情報につき省略)

## 9. 事務局より

### 1. 過去の「大会プログラム・要旨集」の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元のない以下の「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988年(第1～4回大会)

### 2. 会費のお支払いについて

2017年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2016年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

(1) 会費は7,000円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」(会則第19条2)という規定にもとづき、大学院生の会費は5,000円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく5,000円が振り込まれた場合は、2,000円不足として処理します。

(2) 会則第19条1には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。

(3) 2011年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が15年以上で70歳以上の方が対象となります。終身会費として5,000円の納入で、会員資格を継続することができます(ただし、機関誌1,500円は実費購入)。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。

(4)会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さるようお願いいたします。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

### 3. 所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面（はがき・ファックス・E-mail 可）にて事務局までお知らせ下さい。

### 4. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ（<http://socproblem.sakura.ne.jp>）からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

以 上